

見島小中学校だより

第6号



発行責任者 校長 中野 貴夫

豊かな心と健やかな体を持ち、夢の実現に向けて自ら学び続ける見島っ子の育成

2022年、今年もよろしくお願ひします。

児童生徒の皆さん、保護者・地域の皆様、明けましておめでとうございます。

2022年、新しい年がスタートしました。見島小中学校では、今年も児童生徒の教育活動の充実に向け、全教職員が一丸となって全力で取り組んでまいります。そのために、現在、地域の皆様との関わりを大切にした教育を推進するための体制整備や、学校と家庭、地域社会が様々な情報を共有して児童生徒の育ちや学びを支えていくための仕組みづくり等を検討しており、令和4年度からの実施に向けて準備を進めているところです。

今年も、児童生徒が積極的に学校の外に飛び出し様々な体験を通して学ぶことができる機会を増やすとともに、児童生徒の活動によって地域の皆様に元気をお届けできればと思っています。また、学校が地域の皆様にとっても親しみやすい学校、訪れてみたい学校となれるよう努めてまいります。

保護者・地域の皆様には、本校教育活動に対し、変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

NHKのニュースで放送されました。



12月9日(木)に、『学校環境緑化モデル事業完成式典』を行いました。本事業は、学校の緑を増やすため、公益社団法人「国土緑化推進機構」からの助成金によって行われています。本校がこれに応募し、今年度、助成金を受けることができたことになったことから、校舎裏側の砂利だった2箇所のスペースに左の写真のような立派な中庭を作っていただくことができました。この助成金は、全国の

ローソンのお店にある「緑の募金箱」にお客様が入れてくださった募金で成り立っているとのことで、当日は「ローソン」や「やまぐち農林振興公社」の代表の方々をはじめ6人のご来賓をお招きして完成式典を行う運びとなりました。また、式典の開催に当たり、NHKが取材に来られ、当日の夕方と夜のニュースで取り上げられました。

この中庭には、季節の移り変わりを感じることでできるたくさんの樹木が植えられています。地域の皆様もぜひ学校に足をお運びいただき、本校の中庭を通して四季の変化をお楽しみいただければと思います。

なお、この中庭を作る際には、地元見島の多くの方々にお力添えをいただきました。ご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



見島の伝統文化にふれることができました。

12月10日（金）、13日（月）に■■■さんを講師としてお迎えし、鬼楊子づくりを行いました。また、12月21日（火）には、■■■さん、■■■さん、■■■さん、■■■さん、■■■さんを同じく講師としてお迎えし、しめ飾りづくりを行いました。

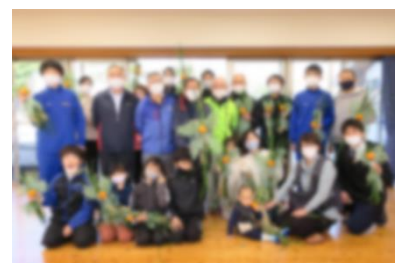
毎年、年末恒例となっているこの二つの行事は、児童生徒が楽しみにしており、併せて見島の伝統文化を学ぶことのできる貴重な機会となっています。

どちらの行事も、はじめに■■■さん、■■■さんから見島に伝わる「鬼楊子」や「しめ飾り」についてのお話を伺い、その後、グループに分かれて作業を行いました。

鬼楊子づくりについては、瞳の形や位置によって鬼楊子の表情が変わることや、涙の意味などについて教えていただきながら、児童生徒は黙々と作業を行っていました。完成した鬼楊子は、1月11日（火）の凧揚げ大会で揚げることになっています。

しめ飾りづくりでは、わらの撚り方や形（輪っか）の作り方、飾り付けの仕方など、懇切丁寧に教えていただきながら、作業を進めていました。中には、はしゃぎ過ぎてしまう場面も見られましたが、そんな児童生徒を優しいまなざしで温かく見守ってくださった講師の方のお姿が印象的でした。

こうした取組をこれからも大事にし、少しでも見島の伝統文化を継承していけたらと思います。講師の皆様、ありがとうございました。



学校評価へのご協力、ありがとうございました。

11月に教員、児童生徒、保護者、地域（学校運営協議会委員）の方々を対象に行った学校評価について、12月14日（火）に開催した「見島小中学校運営協議会」「見島地域ぐるみ生徒指導推進協議会」の合同会議において、その結果を説明しました。

5段階評価で、24項目中、平均値がおおむね4以上の高評価をいただきました。

今回は、そのうちから以下の2点について紙面をお借りして説明します。

○ 児童生徒の心や思春期にかかわる課題と対応

多くの児童生徒が「優しく思いやりのある人になりたいと思っている。」という項目に高評価を付けていました。しかし、思春期に差し掛かる年齢の児童生徒にとって、自我の形成とともに周囲の友達等との人間関係を不安に思ったり、いさかいの影響を大きく受けたりすることがあります。学校としては、児童生徒の「願い」の実現に向け、よりいっそう児童生徒に寄り添いながら様々な教育活動を通じて保護者・地域の方々と連携して取り組みたいと思います。

○ 地域（人材や素材）からの学びや体験を通じた児童生徒の育成

これまでも小学部中学年から中学部の「総合的な学習の時間」や小学部低学年での「生活科」をはじめ、地域に学習素材を求める活動を実施してきました。その中で、児童生徒は「様々な体験ができて楽しい。」と回答しています。地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。